

## 調 査 研 修 報 告 書 (議 員 用)

報告者：横路政之

実施場所：国会・総務省

実施日：平成 28 年 2 月 18 日 (木)

### ■ 目的・課題・問題事項 (調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

・ 地方創生等 28 年度庄原に適した施策について、総務省大臣官房会計課長外 5 名の職員から、主に ICT 関係について説明を受けた。

### ■ 参考とすべき事項

- ・ 教育分野への ICT の利用による人材育成
  - ① 先導的教育システム実証事業 (ICT ドリームイノベーション実証研究)
- ・ 「移住・交流情報ガーデン」を活用した連携セミナーの開催や移住関連イベントの実施などにより、移住希望者等への情報提供体制を強化。
- ・ 地方創生に資する新たなテレワーク (ふるさとテレワーク) の推進
  - ① 企業や雇用の地方への流れを促進し、地方でも都市と同じように働ける環境を実現する「ふるさとテレワーク」を導入する全国の自治体等に対して、導入経費の補助を行う。

### ■ 提言・その他 (本市の施策等にどのように活用すべきか など)

・ ICT に関しては専門的な知識が必要である。各方面には ICT への手助けをする「アドバイザー」を国は配置している。本市は、超高速情報通信網の整備を進めている。全域までにはもう少し時間がかかるが、こういった専門知識を持った人材を活用しない手はない。積極的に活用し都市部から人と仕事を引きこむ方策を考えるべきである。

## 調査研修報告書(議員用)

報告者：横路政之

実施場所：伊豆の国農協・研究生独立農家

実施日：平成 28 年 2 月 19 日(金)

### ■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

・農業だけでは生計が成り立たない時代、新規就農者の7割が生産高1500万円を得ている方策を学んだ。

### ■参考とすべき事項

- ・新規就農者成功の条件
  1. 新規就農者
  2. 土地
  3. 資金
  4. 作目の選定(苺・ミニトマト)
  5. 技術(受け入れ農家)
  6. 地域受入連絡会
  7. 無料農業紹介所の開設
  8. 経営状況の開示および就農計画書の作成
  9. 販売

### ■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)

・上記の様に利益がでるための条件を確実に押さえて実行している。8の経営状況の開示および就農計画の作成に関しては、既存の農家はほとんど実行していない状況の中、時間をかけて、本人任せではなくプロの目で見ても厳しくアドバイスをしている。

・商工会議所職員から新規就農された方の農園に赴き、話しを伺った。その中で、無利子の資金融資、パート確保の援助などは非常に助かっているとのこと。そして、1年目から利益が出て、就農して6年目で資金の半分は返済しているとのこと。

本市においてもぜひこういった成功事例を視察して、ノウハウを学ぶべきである。

平成28年 2 月 26 日

## 調査研修報告書(議員用)

報告者 横路政之

実施場所：わさび栽培農家	実施日：平成28年2月20日(土)
<p>■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)</p> <p>・本市においては、特産品の開発を県立大学などと連携し行っている。中山間地にある特性を生かした特産品は出来ないものか。わさび栽培農家の取り組みを学んだ。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>・中伊豆地区は、畳石式わさび沢による栽培で、一年中栽培・収穫をされている。 ・わさびが育つ条件として、森林が多く水温が13度から15度が適している。ここは湧水も少なく、水温も17.18度と高めであるが、親株から種を取って苗床で育てる「実生」で栽培の量産化を図っている。</p>	
<p>■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)</p> <p>・本市も山、谷と豊富な地域資源を有している。その気になれば「わさび栽培」も出来ないことはない。視察先では、「天城わさびの里」と、全国的に有名な地域名を使用して観光客にもアピールしている。本市は「ひばごん」で有名になった経緯がある。智慧とアイデアでいくらでも特産化は出来ると思う。後はやる気の問題である。</p>	